

延喜神名式に水内郡風間神社あり、今も風間村といふ、俊賴朝臣の歌に、信濃なる木曾路のさくら咲にけり、風のはふりに透間あらずな、夫木集に、信濃路や風のはふりご心せよ、まらゆふ花の匂ふ神垣などよめり、俊賴朝臣雜談抄、また清輔朝臣袋草紙などに、風祝部の事ありか、れば信濃は息長野にてもあらむか、中川顯允は萬葉集に、三篇苧信濃とよめれば、篠野ならむかともいへり、

〔萬葉集相聞〕久米禪師娉石川郎女時歌五首

水篇スミ○篇原作カ苧カ信濃シ乃ノ真弓マコ吾引者ウヒキリヤ宇真人ウヂノヒト佐備而サヒナ不言常將言可聞ナトイハムカキ

〔冠辭考美〕みすゝかるしなぬ

萬葉卷二に、水篇苧信濃乃真弓云云○註こは真篇を苧野とつゝけたり、荷田大人のいへらく

は水篇は真すゝ也水は借字、美と麻略、神代紀に、使山雷者採五百箇真坂樹八十玉籤野槌者採五

百箇野篇八十玉籤云云○註これによるに、すゝてふ小竹をかる野とつゝけし物也と、こは古

意也

位置

〔地勢提要〕乾各國經緯度附里程

信濃上諏訪宿中町極高三十六度二分半、經度東二度二十五分、從東都中山道五十六里二十三町二十

八間半甲州街道四十七里二十九町五十七間半、

信濃長野村善光寺大門町極高三十六度四十分、經度東二度三十分、從東都中仙道五十七里二十三町二

十二間、

〔日本經緯度實測〕北極出地

飛驒 高山 三六度〇八分三〇秒○中略

東西里差